

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100046		
法人名	株式会社 ケアマインド		
事業所名	グループホームこころ川西		
所在地	兵庫県川西市大和西5丁目24-2		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	2015年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成27年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、郊外の団地の中にあり、自然豊かな環境に恵まれています。季節を感じる散歩コースをお顔馴染みの近所の方々と挨拶を交わしながら楽しんでいます。自治会との交流も盛んで季節ごとの行事(運動会、文化祭、ドンと焼き、防災訓練等)にもお互いに参加しております。自治会開催の世代交流喫茶にも毎週通わせていただき、馴染みの方も増えておしゃべりも楽しみの一つになりました。また、一人一人の個性と自由を尊重し、のびのびと暮らして頂ける環境創りを心がけ、ご利用者と職員がアットホームな関係で共に支え合いながら『役割』『楽しみ』『安らぎ』のある生活を目指しています。今年は家族様と一緒に取り組んだ事例で兵庫県介護福祉士会の事例コンテストC1グランプリに出場する等様々な取り組みにもチャレンジしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所後5年目を迎えようとしている。事業所から地域への働きかけに呼応し、地域からの協力も熱く寄せられている。徒歩圏内で行ける範囲に地域のサロンがあり、交流の場として盛り上がり、新しい交流を生むきっかけにもなっている。事業所を訪問するボランティアによるウクレレ演奏、コーラス、マジックショー、新舞踊のほか、毎週の健康体操を待ちわびる利用者の姿も見られる。地域で熱心に取り組まれている防災訓練(図上訓練)にも取り組んでいる。まさに利用者を中心に家族、事業所、地域が一体となっている。今後も各種研修による職員のスキルアップを図るとともに、地域に愛され、自由に行き来できる事業所であってほしいと思う。そのためにも、玄関の開錠については再考を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が中心となり「こんな施設にしたい」という思いを運営理念に「7つの支援方針」として表現した。その結果として、地域密着型サービスの意義が盛り込まれた内容となった。思いを込めて実践につないでいる。	「入居者の個性を尊重し明るく楽しく、その人らしい人生が送れるようこころをこめて寄り添う」という思いのもと、職員全員で考え、支援方針にまとめ共有し、日々のケアの中で実践している。	支援方針を端的に、具体的にまとめて、利用者、家族、来訪者にもわかりやすく明示されてはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に協力や自治会の賛助会員に加入し地域行事(運動会、文化祭、防災訓練等)にはお互いに交流している。また、施設の夏祭りは近隣の方を招待し一緒に楽しみます。	自治会からの呼び掛けにはできるだけ参加するようにしている。小学校の文化祭や地域の運動会を見にいたり、防災訓練に職員が参加している。事業所の夏祭りには、地域ボランティアが参加し地域恒例のイベントとして楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生のトライやるウィークの受入や、キャラバンメイトの実習等で認知症の方々の理解を得たり、個別で民生委員の相談等に応じ地域と一緒に支援の枠が広がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーより防災委員への呼びかけをもらい、地域住民の協力を得て防災訓練ができるようになる。また、夏祭りはキャラバンメイトからボランティア協力が得られる等、運営推進会議の意見からサービス向上につながった。	地域包括、社協、自治会長、民生委員、家族代表が参加して2ヶ月に1回開催されている。事業所からの報告、地域からの情報提供等も得て活発な話し合いが行われている。議事録は家族にも配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会を年3回開催している。行政もメンバーの一員となり、情報の提供や適切な運営について助言、指導を受け業務の運営に生かしている。	運営推進会議、グループホーム連絡会他で顔を合わせたり、直接市の担当窓口を訪ねて相談する事もある。日頃から電話などで気軽に連絡が取れる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のために全ての出入りに施錠はしている。しかし、外出希望にはできる限り対応する等、「禁止の具体的な行為」について職員は理解しており、身体拘束は行わない方針で可能な限りの取り組みをしている。	利用者の重度化もあり、離設の危険性は低くなっているが、夕方不穏となる利用者がある。可能な限り外出希望に沿う努力をしている。また、不穏を回避できる声かけなどを工夫し、身体拘束をしないケアに向け取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員及び家族様も参加して「高齢者の人権」について学び、広い範囲で虐待に当てはまる行為や言動があることを知り、防止についてお互いに注意を払うよう取り組んでいる。	担当を決め研修を実施している。管理者は、行動の制止となる言葉について特に注意している。不適切なケアについては、職員同士でも注意している。管理者は職員のストレス除去に配慮している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については、家族後見人の方が3名おられ、後見人と家族の立場を理解し対応している。また、日常生活自立支援事業は活用していないが家族様からお小遣いを預かりし、お買い物等不自由なく過ごすことができています。	地域包括の協力も得て、研修を実施した。家族後見人の事例があり、職員はその事例からも学んでいる。日常生活自立支援事業についても認識している。利用希望があればともにつなぐことができる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書をもとに説明を行う。又別紙、入居案内文も用い不安や疑問に答え納得していただいている。	見学を受けている。入居の流れや年間スケジュール、費用の説明などのわかりやすい別紙も使い説明している。十分理解し、納得しての契約となっている。制度変更時等は文書を送付している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見を述べることができると共に、運営推進会議においても、家族代表が参加しており外部へ意見を出すと共に解決方法を考える仕組みがある。	2ヶ月に1回の家族会や、担当者会議、運営推進会議ほか、日々の面会時にも聞いている。兵庫県介護福祉士会事例コンテストへの参加は、利用者、家族の意見を基にした事例発表となり、協力により得られた成果でもある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるフロア会議で提案された内容をリーダー会議で内容を詰めて、全体ミーティングに於いて代表者も参加し提案された内容を協議する仕組みがある。	トイレ誘導を特定の利用者のみにしてはいたが、職員からの「他の利用者にも声かけして見ては」との発案があった。実施したところ、排泄自立の人も触発され、自然に排泄が促される結果となり、失禁の頻度が減少するに至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修および、目標に対する評価を行い、向上心を持って働けるような環境作りに努めている。モチベーションの向上や維持ができるよう、各職員に対し自己評価表を作成し目標達成について支援を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、業務に必要な研修や役立つと思われた研修への参加を推奨している。また、感染症、事故予防、防災等はマニュアル担当を決め、率先して研修を受講。他職員へは受講担当者より伝達を受け全員が共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、相互に情報交換や勉強会を開催し、質の向上への取り組みを行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より本人の情報を聞き取りスタッフと共有する。入居後しばらくは不安でいっぱいの利用者の訴えに傾聴し、何に不安を感じているのかを職員と家族様で話し合い援助方法を考えます		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の自宅介護の困難さや不安について話を聞くと共に、入居した場合のメリットやデメリットも説明した上でお互いに本人にとっての最善の方法を話し合うことで良い関係が作れるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向と緊急性等加味した上で入居を決定している。他サービスが適切であれば担当ケアマネジャーと相談し本人の意向と可能性を最大限考慮し対応に努める。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲や能力に応じて、できることはしていただく。お互いに助け合う関係であると共に困った時はお互い様の関係を大切に考え、入居者間でも支えあう関係作りを支援している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしを計画的に又は自主的に営めるように予定を前もってお知らせする取り組みを行った。家族様と同じ説明が出来るよう情報の享有ができるよう取り組むことにより家族様との絆が深まった。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所から入居されて来た方は今まで通っていた「サロン」への継続利用をしたり、今まで通っていた美容院へ通う等今までの関係を大切にしたい支援を行っている。また、面会も気兼ねなく来ていただけるよう対応している。	来訪者には居室で利用者と歓談してもらったり、お茶接待で関係継続の支援も心がけている。定期的に利用している訪問理美容師も馴染みとなっている。家族の協力で外食や墓参りなどの外出をする人もいる。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の態度や言葉から、また、グループでの会話から利用者同士の関係を把握している。孤立させないように、席の工夫をしたり、和める会話に話を切り替える工夫を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から相談等あれば親身に対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に居室担当を決めて、担当職員が日々の関わりから意向を聞きだし、フロアリーダーやケアマネジャーと相談しケア目標(本人の希望)につないでいる。	日曜日のクッキングや、入浴時、受診時間の同行の車中、居室での衣替えの時期など、個別の関わりの中でのさりげない会話からも意向を把握している。聞き取りが困難な場合は、家族との話の中から聞くこともある。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の面会も頻会にあり、また、毎月のモニタリングでも本人の意向や家族様の意見を伺うことが出来るのでその中で参考意見等把握している			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、フロア会議等で全体で情報を共有する等、日頃の健康状態や過ごし方等現状の把握に努めている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が主になって他職員の意見も反映させ毎月のモニタリングを実施。また、個別援助計画も同様に作成している。その都度、家族様に面談して意見や要望を確認し現状に即した介護計画となっている。	利用者の思いを中心に、家族や医療関係者の意見も参考に居室担当者が組み立て、介護計画作成につなげている。毎月のモニタリングと、半年ごとの計画見直しを行い、緊急時にも即応した計画となっている。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応やケアの実践結果についての意見や気づきをケア検討簿に記録し共有することで見直しや新たな課題発見を計画に反映している。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりの心身機能に応じ、スーパーへの買い物や自治会運営の喫茶店に通う等個々に満足感が得られるよう対応している。			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居されても通い慣れた”サロン”の継続。気軽に通える美容院の開拓。自治会運営の喫茶「きらり」には毎週通っています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医を中心に健康管理を行っています。家族様も気になる症状は往診時に同席されたり、電話での相談にも気軽に応じていただけるので家族様も安心できるし納得いただいています。	利用者、家族、納得のうえ協力医の往診医を利用している。日常の健康管理や緊急時での対応も万全で、家族は往診時に一緒に説明を聞いたり、相談もしている。訪問歯科受診も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師と健康上の変化等の相談を密に行い連携を取っている。また、心身の状態悪化時は電話で指示やすぐにかけつけてくれるので安心である。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院紹介や連携で安心して検査や治療を受けられる。入退院についても情報交換や相談もスムーズで良好な関係が築けている。	日常的な健康管理ができており、状態変化に応じて、協力医により他医療機関へ迅速な連携が図れている。可能な限り、入院回避又は早期退院を目指している。利用者、家族の意向を優先した協力体制を確保することで、安心できる環境となっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は対象者はいなかったが、ターミナルケアについて取り組みを行っており、家族会等で事業所でできる範囲や取り組み状況を説明し家族と共に取り組んでいる。	これまでも実績があり、体制は整備している。利用者や家族の意向に添った安心な環境を用意し、職員の出来ること、出来ないことをその都度確認し、チームで対応している。今も、多数の利用者、家族が希望しており、今後、より充実した体制を図っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に、応急手当や初期対応の訓練を行い、急変や事故発生時はすぐに主治医へ連絡を行い指示を受けて、応急処置等を行います。全職員の救急救命講習会受講を義務付けています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練へも参加し、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練(夜間想定含む)を、地域住民の協力の基、実施している。今年度は、家族会と運営推進会議合同の研修会を開催し、市や社協職員、防災委員等も交え、地域の防災対策について学んだ。協力関係を深め、意識を高める機会となった。地域の防災訓練にも参加し、日常的な連携が図れている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴で対応や居室も個室にてプライバシーを保護している。プライドやプライバシーに配慮した対応や言葉かけができるよう「権利擁護」及び「虐待」についても研修を実施している。	利用者一人ひとりの特性を理解し、利用者自身が意志や思いを表せるような声かけや対応を心がけている。選択しやすい具体的な問いかけや、周りへの配慮にも注意し、個々に応じた関わりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の出来る方は自己決定を尊重しているが自分の思いをうまく伝え難い利用者へは言葉を選んだり選択肢を提示したりして希望を確認する等工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の生活の流れはあるが、その日の個々の状況やペースに合わせて柔軟に対応したり工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室へ通い、好みの髪型やカラーやパーマ等も楽しまれている。化粧品が切れたりすると2~3人で買い物に出かけ好みの化粧品を買ったりとおしゃれを楽しみの支援と考えている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は調理会社に任せているが個々の力に応じ、食事の盛り付け、配膳下膳等できる範囲を職員と共に行う。また、毎月4回、クッキングの日を設け夕食やおやつ作りを楽しんでいる。	毎月、調理会社の担当者を交え給食会議を開催、利用者の状況や食事内容等について検討している。盛り付けや配膳の準備には、職員が利用者へ声かけし、一緒に行うようにしている。調理や手作りおやつは、利用者からのリクエストも挙がり、楽しみなイベントとなっている。職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分量を把握し、食欲低下や水分不足の時には、状態に応じてゼリーにしたり食べ易い形状に工夫している。歯科医や医師とも連携を図り原因の改善にも努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施。また、月2回、歯科医と歯科衛生士の口腔ケアと職員も指導を受け連携して個々の口腔ケアを実践している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のオムツ使用形態と排泄パターンを職員が共有し、習慣や力を把握し失敗を減らしたり、感染症の予防に努めている。自立や改善の工夫も個々に指導や対策を行う。	利用者個々の排泄パターンから、声かけのタイミングを早めるなど、徐々にパット交換を減らしたり、失敗を無くすよう努めている。昼間は全員がトイレで排泄し、夜間は、おむつ、ポータブルトイレの人もある。利用者のできることを尊重し、その人に応じた自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏等やその後に及ぼす影響を個々に把握し、トイレ誘導のタイミング、服薬コントロール等共有している。また、腹部マッサージや水分補給など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね曜日は決めてあるが、体調や希望に応じて変更は自由である。入浴拒否傾向の場合は、タイミングをみて働きかけたり、部分浴やシャワー等で保清の確保や徐々に入浴に向けて働きかけます。	週3回をベースとしているが、利用者の好みやその日の気分によって、入りたいときに入浴できるようにしている。毎日入りたい人、夏場に毎日入る人など、個々の希望を優先している。季節風呂などの楽しみを設けたり、職員とおしゃべりを楽しみにしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、午睡の取り方や入眠の時間帯も個別に対応している。季節に応じた寝具交換等も個性を尊重した対応に心がけ安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局とは良好な関係であり、相互に連絡をとり合い、薬の適切な管理と使用ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味・好みを把握すると共に、現在の体調や興味も加味した上でレクリエーションの参加を促したり、ドライブや喫茶等の気分転換等に支援を行っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩を初めスーパーでの買い物、喫茶、ドライブ等外出の楽しみを支援している。また、年2回(春と秋)は外食に出かけ楽しみにしている。	気候のいい時期には、周辺を散歩したり、スーパー等での買い物に出かけている。定期的に地域サロンへの参加や喫茶、昼食を持参してドライブを楽しむこともある。年2回は、季節毎の遠足を企画し、みんなで楽しんでいる。家族の協力を得て外食、外出することもある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお小遣いをお預かりしています。お買い物や喫茶店等で楽しんでいただけるよう支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは自由で、一緒にポストまで出かけます。電話は個別に携帯電話の持込や施設電話を使っていただき連絡がとれるよう支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所で調理する美味しそうな臭いで今日のおかずを想像したり、フローアでめだかやグッピーを飼い可愛い姿を楽しむ等毎日が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	オープンキッチンと畳のスペースが設けられ、調理の様子や匂いを感じられる。テレビの前のソファには、利用者が思い思いに過ごし、くつろいでいる。テーブルは、利用者に応じて柔軟に配置し、利用者同士の交流にも配慮している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニング共、テーブルやイスは組み合わせが自由にできる家具を使用し、その時々状況や雰囲気でも組み合わせを変える等工夫することで気兼ねなく過ごせる居場所を作っている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に使いた家具や道具を持ち込まれたり、好みの家具で居心地良く工夫されている。	整理筆筒や仏壇、椅子やテーブルを持ち込むなど、馴染みの家具や身の回りの雑貨を置いている。趣味の手作りの品や懐かしい写真を飾っている人もいる。自分の部屋でテレビを観たり、横になったりとくつろいで過ごしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をかけたたり、個々の目印を付けて他者の部屋と間違わないような工夫等で「わかってもらい」、「間違えないようにできる」ことを増やし自立した生活ができるよう支援している		